

養老町立小学校再編準備専門部会 第1回総務部会協議事項報告

日 時：令和8年4月15日（水）19時～20時50分

場 所：役場3階第2会議室

出席者：総勢14名（欠席者なし）

（内訳）総務部会委員12名（総務部会の委員に事務局2名含む）

事務局：早崎教育長、中島教育委員会事務局長

協議事項：地域と子ども（学校）の関わり・地域との合意形成について

【進行：早崎 正信 副会長】

- ・総務部会は、非常に大事なポジションであり、地域との合意形成を図ること、地域の同意なしでは進められない。
- ・子どもあつての行事について、統合して1つの学校に集約された場合、行事等の要請について地区としての連絡網など、何かしらの組織付けがないと、地域行事が成り立たなくなるのではでないか。地域は残るので、各地域の組織ができていないと、連絡網を狭めていかないと末端まで情報がいかない。
- ・1つの情報の中継局がしっかりないと情報が正しく伝わらない。情報を集約するセクションが必要。
- ・学校の再編の前に、行事の参加をいかに円滑にスキルアップできるかとうことを先に考えてもらったほうが良いのではないかと。
⇒バイパス機能としていかにそれが正しく参画して参加に結びつくかということと、もうひとつは、これまでは、何となく校長に依頼すれば何となく広がる組織が当たり前になっていたが、統合すると、そこから発信できるような心構えや機能が必要で、確実に発信してることがとても大事なことになる。
- ・養老町は、公民館が中心とした生涯学習の拠点施設としてとても充実している。そのところを皆さんが大事に思っているからこそ、なかなか進まないというジレンマが生じてきている。ただ、統合をしようとした時に、学校の統合はある程度整理しないと今までやってきたものをそのままスライドするという事は難しいのではないかと感じている。
- ・地域自治町民会議でやっていることと、公民館の運営委員会の組織とのすみ分けがきちんとできていないのではないかと感じている。公民館でやっていること、今までやってきたことを大事にしてやってきているものを活かしていくことは大事だと考えている。子ども会でも行事がたくさんあり、子どもが少なくなってきて、親さんも少なくなっていく中で、今までできていたことがスクラップできていなくて悲鳴をあげている状態。今後はスリム化が必要。学校も同じことが言える。
- ・グランドデザインをきちんと描かないといけないうまくいかないと思う。
- ・CSは地域とともにある学校という学校教育から迫ったものであるが、地域学校協働活動というのは、社会教育から迫ったもので、学校を核とした地域づくりというものも同時に進んでいるというふうに認識しているが、養老町ではどういうふうに進んでいるのか。

- ・統廃合も進めて組織を見直す、スリム化にしても活動を持続可能なものにしていく、変えていくチャンスではないか。
- ・子どもたちをうまく統廃合の時に孤立させず、大人と一緒に盛り上げていくことが大事。声をかけたら来てくれる。隣の地域と友達になれるのは子どもたち。大人になるとなかなかそうはいかない。
- ・子どもたちの横のつながりを作ることが大事。子どもたちが興味をもつような行事に変えないといけない。いつまでも古くさい行事ばかりではだめ。子どもたちが喜ぶことを色々考えてやらないといけない。ただ、行事は多すぎる気がするので、もう少し減らしてもいいとは思っている。
- ・色々な行事のアイデア等を地域の垣根、年齢を超えた集まりを作ることが必要。
- ・学校の統合により、子どもたちのコミュニティが広がることを期待している。ただ、不安なのは、地区ごとに分かれてしまうと、このイベントにはこの地区の子だけというふうになってしまわないという心配はある。イベント等をまとめてやってもらえたら、子どもたちのコミュニティは大きくなっていくと期待ができると思う。ただ、心配なのは、ニーズをくみ上げることが可能かどうか気がなるところ。
- ・子ども会のあり方とかPTAのあり方とかも考えていかないといけない大きな問題。
- ・学校が統合したら、地域自治町民会議はどうなるのか。
- ・昨年度、教育委員会が開催した住民説明会では、小学生在校生の半分の家が来ていない現状。小学4年生以上だったら関係ないという意識なのか合意形成というのはなかなか難しい。やみくもに協議するというより、何か課題をあげて、課題意識をもって一つ一つの問題点に対して協議していったら良いのではないかと思う。
- ・小学校が2校になったとしても、全ての学校の体育館は避難所として残すという見解で良いか。
⇒学校が2校になったとしても、体育館は各地区の避難所として使用できる大きな施設となるので、避難所として残していきたいと思っている。

◆これまでのご意見を踏まえてのまとめ

- ・地域の合意形成を図ることについては、早めに手を打たないといけない。
- ・跡地の問題。旧町民プールは、分校づくりを視野に、不登校の対応などに活用するのも一案。壊すのか活用するのか、コンサル業者が入っているので、コンサルの意見をぜひ聞いてみたい。
- ・中継局としての機能をどうするか。地域自治町民会議は、一堂に集まったテーブルであり、皆が所属しているところで意見を出し合うところ。公民館は、みんなの声が聞ける場所。
- ・地域の方の生の声を聞くことは、地域を活性化させていく大事な要素。中学生になったら自分たちで地域の課題に参画していくことが大事。子どもたちを地域にどんどん出していくことが持続可能なものにつながる。学校には、公民館の講座生にどんどん学校に入ってきてもらう。大人は、小学生と関わることで子どもからエネルギーをもらえる。
- ・子どもたちの元気を消さないことが大事。
- ・今までの地域行事等の企画は、これからは、これまでどおりやっていたら、今までやってきた

こともできなくなる。各地区に推進員や体育委員の若い世代がいるので、そういう若い人の意見がほしい、若い世代に会議に出てもらい、新しい発想がほしい。

- ・地域自治町民会議が設立されていないところについては、少しでも早く設立していただいて地域の活性化を図っていただきたい。こういうことをやりたいと言えば、予算もつけてもらえるというのが魅力なので、自分たちで率先して良い意見を出して実行することが望ましい。
- ・学校の統廃合というのは、サービスの広域化だと思う。サービスの広域化とは、教育に限らず公民館が待ったなしに突き付けられている問題で、色々なところに発信して、外からも来てもらえるようにしないと。公民館の利用率はたかだかしれていて、今日は雨が降っていたのもあってか午後から公民館の玄関をくぐった人は一般の人が2人。こんな現状であるから、公民館のサービスの広域化をテーマにしていきたい。
- ・先ほど、若い人の意見がほしいということで、子ども議会で子どもの意見を聞いているとのことで、実際に子どもの生の声を聞いたほうがいいと思っている。ただちょっと心配なのが、若い子どもをもつ親さんたちの意見が無関心なこと。子どものことを考えていても、意見を出すのはいつも上層部の方ばかり。実際、親さんたちが動いたら、それに子どもたちも流れて、親さんたちをうまく巻き込めば先ほどの住民の合意形成がうまくいくのではないかと。高齢者、子どもたち、その親、中間層といった今、働き盛りの方たちの全部の意見が聞けたらいいが、まずは子どもたちの意見を吸い上げる。親さんたちの意見をどう吸い上げるかアイデアは浮かんでこないが、子どもの意見は生徒会であったり、学校の何らかの場で聞けないのかと思う。逆に言えば、そういった小学校のPTAの会合などにこちらから足を運ばないと。
- ・公民館行事もそう。子どもを巻き込んで、親さんが集まっていればそこに行って意見を聞いたり、今度こんな行事をやるけどどうですかと、そこで逆に意見を求めにいったほうが早いのかと思う。

◆次回の総務部会の開催について

6月19日（金）19時～ 開催予定